

専攻実習Ⅱ

講師名	佐々木 直	実務経験等	農業改良普及センター・農業研究センターでの普及指導員・専門研究員としての経験を活かし、肉用牛経営の総合的な実践能力を養うための実習を担当している。
-----	-------	-------	---

科目区分	学科・経営科	必修・選択 (必修、自由)区分	履修 学年	開講 学期	標準 時間	単位数
畜産学科・専門科目	畜産・肉畜	必修	2	通年	450	10
使用教科書・副教材	自作プリント等					
授業の目的	肉用牛経営の総合的な実践能力を養う。					
授業の到達目標	肉用牛の飼養管理や肥育技術の反復習熟と粗飼料の生産調製技術を習得。					

月	学習項目	学習事項	時間	授業 形式	備考 (提出物等)
4月	草地の管理	採草地の利用計画や管理について理解を深める。電気柵の仕組みおよび設置方法を学ぶ。	22	実習	
5月	HACCP運用 草地肥培管理	本校農場HACCPシステムの運用実践。牧草地の肥培管理、牧草の刈取り、反転、梱包、運搬等調製技術を学ぶ。	44	実習	
6月	ICT技術の活用 粗飼料生産調製	ICT技術を活用した飼養管理について学ぶ。家畜共進会出品に向けた管理技術について学ぶ。県外の先進事例について学ぶ。	48	実習 事例 研究	レポート
7・8月	哺育・育成牛の飼養 管理	肉用牛の発育時期別飼養管理方法の理解と技術習得。哺育育成期の管理技術、市場出荷とその準備について学ぶ。	32	実習	
9月	削蹄技術 GAPについて	削蹄方法について学ぶ。 GAP基本理念、意義と取り組み事例を学習する。	12	実習	
	粗飼料の生産調製 牛体管理	イナワラ収穫。育成牛・肥育牛の発育調査により適正な体型・栄養度を把握。子牛市場での販売状況について学ぶ。	12	実習 事例 研究	レポート
10月	護蹄管理 HACCP	削蹄の必要性、牛の保定、削蹄手技。 農場HACCP審査に向けたシステム検証。	28	実習	
11月	繁殖管理 人工授精	発情鑑定、直腸検査。家畜人工授精講習会を受講し、人工授精技術を習得し、資格を取得する。	140	実習	
12月	繁殖牛の飼養管理	妊娠診断、繁殖雌牛の分娩前後の管理、分娩介助。	20	実習	
1月	まとめ	牧場勤務が出来る管理技術の習熟と基本の再確認。家畜人工授精技術の実践。	48	実習	
4～10月	当番実習	朝夕の家畜飼養管理当番。飼料給与、家畜の観察、牛舎掃除等の日常管理	45	実習	
合計			451	時間	

成績評価の方式(評価項目、評価の観点、割合等)

技術の習熟度、実習態度、レポート、出席状況により評価する。
評価割合: 習熟度・レポート60%、平常点40%

履修に当たっての留意点等

授業は牛舎及び草地を主体に行うので、事前に連絡の無い限り作業服、長靴を着用し、筆記用具を携行して臨むこと。天候、牛の状態、農場管理の都合等により、項目が入れ替わることもあるので注意すること。